

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	愛媛県四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設整形病院であり、連携を取ることで健康管理が十分に出来ており、急変時や特変時にはすぐに対応できる環境にあります。  
また、併設施設として介護老人保健施設くりのみ館があり、デイケア職員や入居職員と部署間で連携を取ることで、施設全体で入居されている方の生活のフォローをすることが出来、どこにいても顔見知りの職員が居る安心感があります。  
レクリエーション活動では、様々なレクリエーションを取り入れ、その人が好きなレクリエーションに気軽に参加出来る、職員と一緒に楽しむことが出来るレクリエーションやイベントに力を入れています。  
月に2回音楽療法士が来られ、一人一人のプログラムに合わせて心と体のリハビリの時間を楽しみながら持つ事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年目の事業所であり、利用者の落ち着いた生活がうかがえる。利用者の普通の暮らしがそこにあり、それを支える代表者の医師、管理者、職員全員の温かい姿が見られるホームである。病院、入居施設、在宅サービス等、医療と福祉が連携できる事業所の運営形態は利用者、家族にとっても大きな安心になっており期待も大きい。法人全体で利用者一人ひとりを支えていこうという法人の方針は職員全員に周知され、各事業所間の協力体制も整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 1階 檜

記入者(管理者)  
氏名 栗 育子

評価完了日 22 年 7 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念として掲げ、職員の目につくところに掲示し、理念の共有をしている。また、職員間でその人らしい生活は何か？話し合う場を設けている。</p> <p>(外部評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」という理念を実践する事について、職員全員で話し合い取り組んでいる。「その人らしい暮らし」を支援する難しさを感じながらも、高い理想にむけて取り組む姿勢がうかがえる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩に出かけた際は積極的に挨拶をしたり、地域のお祭りなどで御神輿や太鼓台が施設前に立ち寄って下さる。また、地域の幼稚園のお遊戯やボランティア活動の場にもなっている。</p> <p>(外部評価) 同法人の病院、介護老人保健施設、高齢者専用賃貸住宅、デイサービス等が隣接している環境で地域の住民、利用者の行き来があり、日常的に交流する機会がある。利用者にとっての新たな地域とのつながりと考え、法人全体で連携し支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議にて認知症について話したり、研修で学んだ内容を報告したりしている。また、地域の方やご家族から、認知症の事で困っていることや解らないことを意見交換の場として運営推進会議を活用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で上がった問題点や課題などは職員間ですぐに話し合うようにしている。また、参加していないスタッフにも情報が共有できるように、議事録はすぐに目につくところへ設置している。改善を行った場合もすぐに報告するようにしている。</p> <p>(外部評価) 2か月毎に定期的開催している。地域包括、婦人会、公民館館長、民生委員、入居者家族等が参加し、事業所の活動内容、利用者の状態、職員研修、地域交流、ボランティア等の報告を行い意見交換が行われている。意見や要望はスタッフ会で話し合っているが、サービス向上に十分活かしているとまでは言えない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) ふれあい相談員さんが来て下さり、情報交換を行うようにしている。気になることは書面だけではなく、その場でお話をするようにしている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの担当者に、運営推進会議に参加してもらうことで情報交換ができています。運営推進会議でのつながりを利用し協力関係を深めるよう取り組みを進めているところである。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 定期的に職員間で学ぶ場を設けるようにしている。また、身体拘束となりうる事が必要ではないかと上がった場合は、職員間で徹底的に話し合う様にしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしない方針を掲げ、夜間のみ玄関、各ユニットの入り口の施錠を行っている。また、職員は、研修やケアカンファレンス等で学んだことを活かし、日常の利用者との関わりにおいても、表情、行動、言動、気持ちを探りながら、利用者本位の声かけや態度に気をつけ、質の高いケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会の場を設け、知識と意識を深め防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学ぶ事で知識を深めている。また、職員間の定期的な勉強会の場を持つように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする際、パンフレットや書類などで詳しく説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関や各ユニットに、意見箱の設置をしている。また、来館時などに声掛けを行い、口頭でも気軽に言ってもらえる様な家族との関係作りに努めている。家族から出た意見に関しては、職員間で話し合いの場を持つようにしている。 (外部評価) 運営推進会議に家族も出席し、事業所の取り組み内容や具体的な課題について報告し質問、意見、要望を聞いており、その都度回答も行っている。会議の内容は議事録にして目に付くところに設置し、参加していない家族にも見てもらっている。また、家族には、定期的に行事案内やどんぐり新聞を送付し情報を発信している。	運営推進会議には家族の参加もあり、意見や要望も聞いているが、家族会等は設置しておらず、多くの家族からの意見や要望を聞く機会が少ない。多くの家族が参加でき、関わりを持ってもらえるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月定期的にミーティングを行い、管理者、職員での話し合いの場を設けている。普段からも意見を言いやすい様な雰囲気作りに努めている。  (外部評価) 法人全体の職員旅行や、スポーツ大会等、職員のレクリエーションの機会を設け、運営者、幹部職員、一般職員が親しく関われる機会を設け、話がしやすい環境ができています。代表者も普段から職員に親しく声かけし話しやすい雰囲気を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時等、職員の努力しているところや実績、反省や目標などを話し合う機会を設けるようにしている。また、大正琴・詩吟など業務に必要なスキルアップを図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設け、成果を発表する機会作りも積極的に行っている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、同法人老健スタッフと合同の勉強会を行っている。また、積極的に研修などにも参加し、職員間で研修で学んだ事の発表の場を持つようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った同業者の方と、連絡を取り合い交流を持ったり、他ホームに見学に行くなどの交流を持っている。また、今後も相互訪問の場を積極的に設けたいと思っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはお話を十分に伺い、不安に思っていることなど、入居に関する不安を取り除けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に家族が不安に思っている事や、希望などを必ず聞くようにしている。また、面会の際は積極的に声をかけお話しする場を設けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり、介護保険の内容を分かりやすく説明するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で出来る事はなるべく自分でしていただいたり、日常生活のお手伝い（食器を拭いたり、並べたり等）を、共に行ったりしている。また、得意なこと等は特に「教えていただく」という意識の中でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 関係が途切れない様に努め、来館時にはお話をしたり、なかなか来られない遠方の方には電話で連絡をしたりしている。イベントの際（特に外出）にはなるべくご家族に声掛けし、ご家族も一緒に出かけられる場を設けるようにしている。また、他科受診もご家族に協力を仰いで極力一緒に行っていただくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイケアに通っている方や病院に入院している方に会いたい人が居れば、職員間で連絡を取り合い会えるよう支援している。遠方にいる人に会いたいと言われる場合は、ご家族と相談しなるべく希望に添えるように支援している。手紙や電話などのやりとり等も支援している。 (外部評価) 入居8年目の利用者もおりホームでの生活が定着し、利用者にとっての馴染みの場所となっている。個々の利用者の状況によって支援の内容も臨機応変に対応している。法人内での職員の異動もあり、どこに行っても馴染みの職員がおり、各事業所間で連携を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で定期的に話し合いの場を設け、人間関係など気になる事は話し合い、ケアに活かすようにしている。レクリエーションや食事などの際は職員が間に入りながら入居者同士が円滑に交流出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の運営する医療サービス、施設サービス、他の居宅サービスを提供する事で、総合的にサポートする環境を整え、退去後在宅担当者会議への意見紹介を行い、退去後支援も怠りの内容に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当者を含め、職員間で定期的にカンファレンスを開催して、本人の希望や意向を把握するようにしている。また、個別ケア用紙を作成し、気になる事や本人の言葉を記録として残し、職員がケア内容含め把握出来る様にしている。  (外部評価) 「自分らしい暮らし」を職員全員で取り組んでいる。利用者一人ひとりが好きな事を積極的にできるように支援している。また、大正琴クラブは職員も参加し、利用者と共通の趣味として取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居後、ご本人やご家族、担当ケアマネなどから情報収集し、個別表に記録して職員間で情報を共有している。 入居後には特に会話等の時間を設け、分かったことなどは随時追加し、職員間で話し合うようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一日の行動や気づいたこと等を記録として一人一人残し、状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族の参加は難しいのが現状ではある。来られないときは事前にお話を聞く時間を来館時に設けたり、電話でお話しし意見を聞けるように努めている。また、本人とよく話し、本人の希望に添えるよう心がけている。  (外部評価) 遠方の家族や疎遠になっている家族、家族間での意見の相違がある等課題もあるが、できるだけ利用者の現在の状況を把握してもらえるように、6か月毎にケアプランと一緒に手紙や写真を送っている。利用者や家族のカンファレンスへの参加を促す等今後の取り組みに期待できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別記録として残し、全職員が観覧できるようにしている。また、気になる事や気付いたこと、実施したこと、結果なども直ぐに書き込み、職員間で情報が共有できるようにしている。それを踏まえ、ケアカンファレンスの場を設け検討するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設（リハビリ機器・入浴装置・福祉車両など）を、その時の利用者の状況や要望に合わせ、他部門と連携しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などと連携を取りながら、問題点や要望があれば気軽に協力依頼出来る様な関係作りを構築している。また、最近では、運営推進会議から地域の人や婦人会の方の協力やお誘いも受けることが多くなってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人として隣接しており、いつでも柔軟に対応できるようになっている。昔からのかかりつけ医が居る方もおり、本人や家族の希望を尊重し家族や医療機関と連携を取りながら受診できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 殆どの利用者が母体である病院をかかりつけ医に希望しており、24時間365日医療と介護の連携のもと安心して安全な生活を送っている。代表者の医師は、ホームにもたびたび顔を出し、利用者や職員と日常的に関わりを持ち、情報交換を行っている。他科受診の時は家族の協力も得ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人施設として隣接しており、いつでも対応が出来る様になっている。病院の看護師とも連絡を取り合い、入居者の健康把握・管理を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 同法人医療機関に入院する方が殆どであり、同法人医療機関との連携は取れているが、他医療機関に掛かっている場合、情報交換や相談を行うようにしているが連携が取れているとは言い難い。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人としては、同ユニットの他の入居者との関係を考え、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設にて対応する事となっている。以上を説明した上で、本人や家族が望むのであれば他医療機関などの連携を取りケアしていくよう努めており、終末期についてなども職員間で話す場を設けている。</p> <p>(外部評価) ホームで終末期を迎えたい利用者や家族の希望もあり、今後終末期ケアに取り組む可能性もあり、看取りについて職員全員で話し合う機会を持っている。利用者や家族との話し合いが重要であることを理解し、医療との連携もできている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に、急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強会の場を設け、シュミレーションを行ったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、定期的に防火避難訓練を行っている。また、運営推進会議の場で火災時の避難について話し合いの場を設けたりしている。  (外部評価) 運営推進会議でも、防火安全対策について議題にしている。スプリンクラーの設置、緊急通報装置の設置、避難経路の確保、年2回の避難訓練等の安全対策は行っているが、地域の協力体制について課題があり、実際に火災があった場合の不安もある。	運営推進会議での継続課題として、地域との具体的な協力体制の構築、利用者も参加しての災害を想定した実践的で定期的な自主訓練の実施を期待したい。また、毎週行っている環境整備に付属した消火器や避難経路の確保等の設備点検を定期的に行うことで、職員の防災に関する意識の向上を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ間で、入居者に対する態度や言動については普段から話合う機会を定期的持つようにしている。プライバシーについても同様に話し合い、意見交換の場を持つようにしている。  (外部評価) 入室時のノックや声かけ、各居室にあるトイレ介助時の話し方や声の大きさ、トーンに配慮がされている。各居室の冷蔵庫内の食品の管理等、気になることはスタッフ会議で話し合い申し送りノートに記録しお互いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き出せたり、スタッフに言える様な人間関係作りに努めている。自己決定に関しても、本人が理解し、納得できる様に何事もよく説明するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の日課やお風呂の日等は決めているが、それにとらわれることなく、入浴や外出などの希望に添って柔軟に対応が出来る様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服などはなるべくご自分の好みの物を着ていただけるよう一緒に選んだりアドバイスをを行っている。お買い物には職員が一人に対し一人が付き添い、好きな服や似合う服を一緒に選び購入する方もいる。美容院も併設施設のボランティアを利用する方も多いが、家族や美容院の協力を得て、なじみの美容院を利用する方も多い。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の際や、日頃の会話の中で入居者の好みを聞き、メニューに活かしたり、季節に合わせた食材やメニューを提供するようにしている。調理は減多にされない方が多いが、片付けや準備は積極的に手伝って下さる方が多い。 (外部評価) 併設の施設の栄養士によりメニューやカロリー、食材の購入等管理しているが、調理は3ユニットで協力して行っている。利用者の能力や希望に合わせてできることは一緒に行っている。盛り付けの色合いや食器等で美味しく食べられる工夫をしたり、年に何度かは外食して希望に添えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側について、食事量のチェックやあまり食べられていない方には声掛けを行う様にしている。また、食事量や水分量に関しては、食事の際、入浴後、訪室時などに行い、特にチェックが必要な人に対しては記録として残し、職員間で把握が出来る様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診がありDrと連携し口腔ケアを行い、一人一人に応じた、口腔ケアや声掛けを行うようにしている。口腔状態に応じ歯科Drと相談しながら、専門具なども利用したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定時でトイレ誘導は行っているが、その方一人一人の排泄パターンを把握する事に努め、その方に合わせてトイレ誘導を行うようにしている。	
			(外部評価) 行動パターンを把握し声かけ誘導を行っている。排泄行動に問題のあった利用者が、トイレにて排泄できるようになった事例もあり、一人ひとりにあった排泄支援を行っている。夜間はリハビリパンツにて、睡眠妨害にならないよう配慮しながら声かけしトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) DrやNsと相談し、便秘薬にて便秘対応を行っているが、水分補給や運動を促し、自立排便が出来る様に支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位でお風呂とシャワー浴、併設施設の順温泉の大浴場を利用し、本人の希望や身体機能に合わせて入浴を行っている。また、予定として入浴日や時間は個々で設定しているが、本人の希望や状態によっては、予定日や時間に関係なく柔軟に対応できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の高齢化により、浴室の手すりを設置した。状態によって清拭等に変更した時は個々の入浴状態を介護記録に記載し申し送りしている。清潔が保てるように予定日や時間に関係なく柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠や生活リズムを尊重するようにしている。眠れないと訴える方や不安が強い方には、無理にベッドに誘導するのではなく、詰所や食堂で落ち着くまで一緒に過ごしたりお話ししたり安心出来るような働き掛けを行っている。また、室温やリネンも状況に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が服用している薬と、副作用の一覧表を詰所に置き、すぐに確認出来る様にしている。また、変更があった場合もすぐに最新の情報に直し、情報共有が出来る様にしている。新しい薬や変更された薬に関しては、すぐにスタッフに周知し、服用後の状態観察を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーション活動の参加を積極的に呼びかけている。レクリエーションも詩吟や大正琴、作業など色々と提供し、自分の好きなレクリエーションに自由に参加出来る様にしている。また、これまでの趣味を続けられるよう支援し、俳句の投書や、裁縫など積極的にしている人も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば、ご家族と相談し、体調の許す限り家族やなじみのタクシー運転手、外出先の方の協力を得て外出できるように支援している。 また、併設施設の入居者施設デイケア利用者に会いたいと言われる方も多く、部署間で連絡を取り合い、法人併設施設への行き来は自由に出来るようにしている。 (外部評価) 買い物デイは毎月計画し、利用者の希望に合わせて週1回程度予定し、近くのスーパーに行っている。年間行事でドライブも計画し、利用者の希望に添えるよう支援している。行事案内は家族にも送付し参加を呼びかけている。また、お正月やお盆の外泊、外出の支援についても家族に手紙で希望を聞き協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本はご自分で所持していただいております、その方の認知レベルに応じ、物盗られ妄想や置き忘れの酷い方などは、少額の所持とし、お買い物などで必要な際はご家族に連絡を取り、財布に入れていただくようにしている。 買い物の際はお財布を所持していただき、なるべくご自分の手から支払いを行えるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引くことが出来る様に設備している。最近では携帯電話を所持され、ご家族とお話しされる方も多。公衆電話も設置しているが、よく電話をされる方は、先方に直通の携帯電話に掛けていただき、簡単にお話出来る様な対応をしている。手紙などはポストがあるが、直接職員に依頼する方が殆どである。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホーム内や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた色合いの内装にしている。玄関や食堂には季節の花を飾り付け、四季を感じる事が出来るようにしている。	
			(外部評価) 掃除担当の職員が2名おり、掃除が行き届き清潔が保たれている。照明も落ち着いたものにしており内装の雰囲気と相まって、落ち着いた空間になっている。なつかしい日本の住居の雰囲気があり利用者は居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂や廊下にソファ、マッサージチェアを置き、そこで気の合う方とお話したり、食堂でテレビを見てゆっくりとくつろぐ事が出来る様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室内には、本人が自宅で生活していたときから使っていた物や、写真などを飾り、本人にとって暮らしやすい環境になるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室にはトイレ、洗面台、クローゼットが設置され冷蔵庫、テレビ、ベット、整理ダンス、カーテンが備品として準備されている。清潔な部屋からは豊かな海や山を見ることが出来る。居室の入り口には、大きな木の表札があり利用者一人ひとりの住居ということを感じることが出来るよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の出来る事や出来ないことの把握や、こうすれば出来るかもしれないと言った意見をカンファレンスやミーティングの場に出し合う様にしている。また、実践した際は記録に残し、スタッフ間で情報共有するようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	愛媛県四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設整形病院であり、連携を取ることで健康管理が十分に出来ており、急変時や特変時にはすぐに対応できる環境にあります。  
また、併設施設として介護老人保健施設くりのみ館があり、デイケア職員や入居職員と部署間で連携を取ることで、施設全体で入居されている方の生活のフォローをすることが出来、どこにいても顔見知りの職員が居る安心感があります。  
レクリエーション活動では、様々なレクリエーションを取り入れ、その人が好きなレクリエーションに気軽に参加出来る、職員と一緒に楽しむことが出来るレクリエーションやイベントに力を入れています。  
月に2回音楽療法士が来られ、一人一人のプログラムに合わせて心と体のリハビリの時間を楽しみながら持つ事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年目の事業所であり、利用者の落ち着いた生活がうかがえる。利用者の普通の暮らしがそこにあり、それを支える代表者の医師、管理者、職員全員の温かい姿が見られるホームである。病院、入居施設、在宅サービス等、医療と福祉が連携できる事業所の運営形態は利用者、家族にとっても大きな安心になっており期待も大きい。法人全体で利用者一人ひとりを支えていこうという法人の方針は職員全員に周知され、各事業所間の協力体制も整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 2階 櫟

記入者(管理者)  
氏名 栗 育子

評価完了日 22 年 7 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念として掲げ、職員の目につくところに掲示し、理念の共有をしている。また、職員間でその人らしい生活は何か？話し合う場を設けている。</p> <p>(外部評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」という理念を実践する事について、職員全員で話し合い取り組んでいる。「その人らしい暮らし」を支援する難しさを感じながらも、高い理想にむけて取り組む姿勢がうかがえる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩に出かけた際は積極的に挨拶をしたり、地域のお祭りなどで御神輿や太鼓台が施設前に立ち寄って下さる。また、地域の幼稚園のお遊戯やボランティア活動の場にもなっている。</p> <p>(外部評価) 同法人の病院、介護老人保健施設、高齢者専用賃貸住宅、デイサービス等が隣接している環境で地域の住民、利用者の行き来があり、日常的に交流する機会がある。利用者にとっての新たな地域とのつながりと考え、法人全体で連携し支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議にて認知症について話したり、研修で学んだ内容を報告したりしている。また、地域の方やご家族から、認知症の事で困っていることや解らないことを意見交換の場として運営推進会議を活用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議で上がった問題点や課題などは職員間ですぐに話し合うようにしている。また、参加していないスタッフにも情報が共有できるように、議事録はすぐに目につくところへ設置している。改善を行った場合もすぐに報告するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2か月毎に定期的開催している。地域包括、婦人会、公民館館長、民生委員、入居者家族等が参加し、事業所の活動内容、利用者の状態、職員研修、地域交流、ボランティア等の報告を行い意見交換が行われている。意見や要望はスタッフ会で話し合っているが、サービス向上に十分活かしているとまでは言えない。</p>	運営推進会議での意見要望について、その場での回答に留まらず、継続課題として運営者、職員全員で話し合いサービス向上に活かせるような取り組みを期待したい。また、会議の出席者に家族の参加、職員の参加を促し、活発な意見交換や情報交換ができることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ふれあい相談員さんが来て下さり、情報交換を行うようにしている。気になることは書面だけではなく、その場でお話をするようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターの担当者に、運営推進会議に参加してもらうことで情報交換ができています。運営推進会議でのつながりを利用し協力関係を深めるよう取り組みを進めているところである。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に職員間で学ぶ場を設けるようにしている。また、身体拘束となりうる事が必要ではないかと上がった場合は、職員間で徹底的に話し合う様にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>身体拘束をしない方針を掲げ、夜間のみ玄関、各ユニットの入り口の施錠を行っている。また、職員は、研修やケアカンファレンス等で学んだことを活かし、日常の利用者との関わりにおいても、表情、行動、言動、気持ちを探りながら、利用者本位の声かけや態度に気をつけ、質の高いケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会の場を設け、知識と意識を深め防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学ぶ事で知識を深めている。また、職員間の定期的な勉強会の場を持つように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする際、パンフレットや書類などで詳しく説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関や各ユニットに、意見箱の設置をしている。また、来館時などに声掛けを行い、口頭でも気軽に言ってもらえる様な家族との関係作りに努めている。家族から出た意見に関しては、職員間で話し合いの場を持つようにしている。  (外部評価) 運営推進会議に家族も出席し、事業所の取り組み内容や具体的な課題について報告し質問、意見、要望を聞いており、その都度回答も行っている。会議の内容は議事録にして目に付くところに設置し、参加していない家族にも見てもらっている。また、家族には、定期的に行事案内やどんぐり新聞を送付し情報を発信している。	運営推進会議には家族の参加もあり、意見や要望も聞いているが、家族会等は設置しておらず、多くの家族からの意見や要望を聞く機会が少ない。多くの家族が参加でき、関わりを持ってもらえるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月定期的にミーティングを行い、管理者、職員での話し合いの場を設けている。普段からも意見を言いやすい様な雰囲気作りに努めている。  (外部評価) 法人全体の職員旅行や、スポーツ大会等、職員のレクリエーションの機会を設け、運営者、幹部職員、一般職員が親しく関われる機会を設け、話がしやすい環境ができています。代表者も普段から職員に親しく声かけし話しやすい雰囲気を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時等、職員の努力しているところや実績、反省や目標などを話し合う機会を設けるようにしている。また、大正琴・詩吟など業務に必要なスキルアップを図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設け、成果を発表する機会作りも積極的に行っている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、同法人老健スタッフと合同の勉強会を行っている。また、積極的に研修などにも参加し、職員間で研修で学んだ事の発表の場を持つようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った同業者の方と、連絡を取り合い交流を持ったり、他ホームに見学に行くなどの交流を持っている。また、今後も相互訪問の場を積極的に設けたいと思っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはお話を十分に伺い、不安に思っていることなど、入居に関する不安を取り除けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に家族が不安に思っている事や、希望などを必ず聞くようにしている。また、面会の際は積極的に声をかけお話しする場を設けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり、介護保険の内容を分かりやすく説明するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で出来る事はなるべく自分でしていただく、日常生活のお手伝い（食器を拭いたり、並べたり等）を、共に行ったりしている。また、得意なこと等は特に「教えていただく」という意識の中でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 関係が途切れない様に努め、来館時にはお話をしたり、なかなか来られない遠方の方には電話で連絡をしたりしている。イベントの際（特に外出）にはなるべくご家族に声掛けし、ご家族も一緒に出かけられる場を設けるようにしている。また、他科受診もご家族に協力を仰いで極力一緒に行っていただくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイケアに通っている方や病院に入院している方に会いたい人が居れば、職員間で連絡を取り合い会えるよう支援している。遠方にいる人に会いたいと言われる場合は、ご家族と相談しなるべく希望に添えるように支援している。手紙や電話などのやりとり等も支援している。 (外部評価) 入居8年目の利用者もおりホームでの生活が定着し、利用者にとっての馴染みの場所となっている。個々の利用者の状況によって支援の内容も臨機応変に対応している。法人内での職員の異動もあり、どこに行っても馴染みの職員がおり、各事業所間で連携を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で定期的に話し合いの場を設け、人間関係など気になる事は話し合い、ケアに活かすようにしている。レクリエーションや食事などの際は職員が間に入りながら入居者同士が円滑に交流出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の運営する医療サービス、施設サービス、他の居宅サービスを提供する事で、総合的にサポートする環境を整え、退去後在宅担当者会議への意見紹介を行い、退去後支援も怠りの内容に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当者を含め、職員間で定期的にカンファレンスを開催して、本人の希望や意向を把握するようにしている。また、個別ケア用紙を作成し、気になる事や本人の言葉を記録として残し、職員がケア内容を含め把握出来る様にしている。 (外部評価) 「自分らしい暮らし」を職員全員で取り組んでいる。利用者一人ひとりが好きな事を積極的にできるように支援している。また、大正琴クラブは職員も参加し、利用者で共通の趣味として取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居後、ご本人やご家族、担当ケアマネなどから情報収集し、個別表に記録して職員間で情報を共有している。入居後には特に会話等の時間を設け、分かったことなどは随時追加し、職員間で話し合うようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一日の行動や気づいたこと等を記録として一人一人残し、状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族の参加は難しいのが現状ではある。来られないときは事前にお話を聞く時間を来館時に設けたり、電話でお話しし意見を聞けるように努めている。また、本人とよく話し、本人の希望に添えるよう心がけている。	
			(外部評価) 遠方の家族や疎遠になっている家族、家族間での意見の相違がある等課題もあるが、できるだけ利用者の現在の状況を把握してもらえるように、6か月毎にケアプランと一緒に手紙や写真を送っている。利用者や家族のカンファレンスへの参加を促す等今後の取り組みに期待できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別記録として残し、全職員が観覧できるようにしている。また、気になる事や気付いたこと、実施したこと、結果なども直ぐに書き込み、職員間で情報が共有できるようにしている。それを踏まえ、ケアカンファレンスの場を設け検討するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設（リハビリ機器・入浴装置・福祉車両など）を、その時の利用者の状況や要望に合わせ、他部門と連携しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などと連携を取りながら、問題点や要望があれば気軽に協力依頼出来る様な関係作りを構築している。また、最近では、運営推進会議から地域の人や婦人会の方の協力やお誘いも受けることが多くなってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 栗整形外科病院が法人として隣接しており、いつでも柔軟に対応できるようになっている。昔からのかかりつけ医が居る方もおり、本人や家族の希望を尊重し家族や医療機関と連携を取りながら受診できるよう支援している。  (外部評価) 殆どの利用者が母体である病院をかかりつけ医に希望しており、24時間365日医療と介護の連携のもと安心して安全な生活を送っている。代表者の医師は、ホームにもたびたび顔を出し、利用者や職員と日常的に関わりを持ち、情報交換を行っている。他科受診の時は家族の協力も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 栗整形外科病院が法人施設として隣接しており、いつでも対応が出来る様になっている。病院の看護師とも連絡を取り合い、入居者の健康把握・管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同法人医療機関に入院する方が殆どであり、同法人医療機関との連携は取れているが、他医療機関に掛かっている場合、情報交換や相談を行うようにしているが連携が取れているとは言い難い。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 法人としては、同ユニットの他の入居者との関係を考え、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設にて対応する事となっている。以上を説明した上で、本人や家族が望むのであれば他医療機関などの連携を取りケアしていくよう努めており、終末期についても職員間で話す場を設けている。  (外部評価) ホームで終末期を迎えたい利用者や家族の希望もあり、今後終末期ケアに取り組む可能性もあり、看取りについて職員全員で話し合う機会を持っている。利用者や家族との話し合いが重要であることを理解し、医療との連携もできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に、急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強会の場を設け、シュミレーションを行ったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、定期的に防火避難訓練を行っている。また、運営推進会議の場で火災時の避難について話し合いの場を設けたりしている。  (外部評価) 運営推進会議でも、防火安全対策について議題にしている。スプリンクラーの設置、緊急通報装置の設置、避難経路の確保、年2回の避難訓練等の安全対策は行っているが、地域の協力体制について課題があり、実際に火災があった場合の不安もある。	運営推進会議での継続課題として、地域との具体的な協力体制の構築、利用者も参加しての災害を想定した実践的で定期的な自主訓練の実施を期待したい。また、毎週行っている環境整備に付属した消火器や避難経路の確保等の設備点検を定期的に行うことで、職員の防災に関する意識の向上を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ間で、入居者に対する態度や言動については普段から話合う機会を定期的持つようにしている。プライバシーについても同様に話し合い、意見交換の場を持つようにしている。  (外部評価) 入室時のノックや声かけ、各居室にあるトイレ介助時の話し方や声の大きさ、トーンに配慮がされている。各居室の冷蔵庫内の食品の管理等、気になることはスタッフ会議で話し合い申し送りノートに記録しお互いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き出せたり、スタッフに言える様な人間関係作りに努めている。自己決定に関しても、本人が理解し、納得できる様に何事もよく説明するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の日課やお風呂の日等は決めているが、それにとらわれることなく、入浴や外出などの希望に添って柔軟に対応が出来る様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服などはなるべくご自分の好みの物を着ていただけるよう一緒に選んだりアドバイスをを行っている。お買い物には職員が一人に対し一人が付き添い、好きな服や似合う服を一緒に選び購入する方もいる。美容院も併設施設のボランティアを利用する方も多いが、家族や美容院の協力を得て、なじみの美容院を利用する方も多し。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の際や、日頃の会話の中で入居者の好みを聞き、メニューに活かしたり、季節に合わせた食材やメニューを提供するようにしている。調理は減多にされない方が多いが、片付けや準備は積極的に手伝って下さる方が多い。 (外部評価) 併設の施設の栄養士によりメニューやカロリー、食材の購入等管理しているが、調理は3ユニットで協力して行っている。利用者の能力や希望に合わせてできることは一緒に行っている。盛り付けの色合いや食器等で美味しく食べられる工夫をしたり、年に何度かは外食して希望に添えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側について、食事量のチェックやあまり食べられていない方には声掛けを行う様にしている。また、食事量や水分量に関しては、食事の際、入浴後、訪室時などに行い、特にチェックが必要な人に対しては記録として残し、職員間で把握が出来る様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診がありDrと連携し口腔ケアを行い、一人一人に応じた、口腔ケアや声掛けを行うようにしている。口腔状態に応じ歯科Drと相談しながら、専門具なども利用したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定時でトイレ誘導は行っているが、その方一人一人の排泄パターンを把握する事に努め、その方に合わせてトイレ誘導を行うようにしている。	
			(外部評価) 行動パターンを把握し声かけ誘導を行っている。排泄行動に問題のあった利用者が、トイレにて排泄できるようになった事例もあり、一人ひとりにあった排泄支援を行っている。夜間はリハビリパンツにて、睡眠妨害にならないよう配慮しながら声かけしトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) DrやNsと相談し、便秘薬にて便秘対応を行っているが、水分補給や運動を促し、自立排便が出来る様に支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位でお風呂とシャワー浴、併設施設の順温泉の大浴場を利用し、本人の希望や身体機能に合わせて入浴を行っている。また、予定として入浴日や時間は個々で設定しているが、本人の希望や状態によっては、予定日や時間に関係なく柔軟に対応できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の高齢化により、浴室の手すりを設置した。状態によって清拭等に変更した時は個々の入浴状態を介護記録に記載し申し送りしている。清潔が保てるように予定日や時間に関係なく柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠や生活リズムを尊重するようにしている。眠れないと訴える方や不安が強い方には、無理にベッドに誘導するのではなく、詰所や食堂で落ち着くまで一緒に過ごしたりお話ししたり安心出来るような働き掛けを行っている。また、室温やリネンも状況に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が服用している薬と、副作用の一覧表を詰所に置き、すぐに確認出来る様にしている。また、変更があった場合もすぐに最新の情報に直し、情報共有が出来る様にしている。新しい薬や変更された薬に関しては、すぐにスタッフに周知し、服用後の状態観察を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーション活動の参加を積極的に呼びかけている。レクリエーションも詩吟や大正琴、作業など色々と提供し、自分の好きなレクリエーションに自由に参加出来る様にしている。また、これまでの趣味を続けられるよう支援し、俳句の投書や、裁縫など積極的にしている人も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば、ご家族と相談し、体調の許す限り家族やなじみのタクシー運転手、外出先の方の協力を得て外出できるように支援している。 また、併設施設の入居者施設デイケア利用者に会いたいと言われる方も多く、部署間で連絡を取り合い、法人併設施設への行き来は自由に出来るようにしている。 (外部評価) 買い物デイは毎月計画し、利用者の希望に合わせて週1回程度予定し、近くのスーパーに行っている。年間行事でドライブも計画し、利用者の希望に添えるよう支援している。行事案内は家族にも送付し参加を呼びかけている。また、お正月やお盆の外泊、外出の支援についても家族に手紙で希望を聞き協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本はご自分で所持していただいております、その方の認知レベルに応じ、物盗られ妄想や置き忘れの酷い方などは、少額の所持とし、お買い物などで必要な際はご家族に連絡を取り、財布に入れていただくようにしている。 買い物の際はお財布を所持していただき、なるべくご自分の手から支払いを行えるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引くことが出来る様に設備している。最近では携帯電話を所持され、ご家族とお話しされる方も多。公衆電話も設置しているが、よく電話をされる方は、先方に直通の携帯電話に掛けていただき、簡単にお話出来る様な対応をしている。手紙などはポストがあるが、直接職員に依頼する方が殆どである。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホーム内や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた色合いの内装にしている。玄関や食堂には季節の花を飾り付け、四季を感じる事が出来るようにしている。	
			(外部評価) 掃除担当の職員が2名おり、掃除が行き届き清潔が保たれている。照明も落ち着いたものにしており内装の雰囲気と相まって、落ち着いた空間になっている。なつかしい日本の住居の雰囲気があり利用者は居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂や廊下にソファ、マッサージチェアを置き、そこで気の合う方とお話したり、食堂でテレビを見てゆっくりとくつろぐ事が出来る様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室内には、本人が自宅で生活していたときから使っていた物や、写真などを飾り、本人にとって暮らしやすい環境になるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室にはトイレ、洗面台、クローゼットが設置され冷蔵庫、テレビ、ベット、整理ダンス、カーテンが備品として準備されている。清潔な部屋からは豊かな海や山を見ることが出来る。居室の入り口には、大きな木の表札があり利用者一人ひとりの住居ということを感じることが出来るよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の出来る事や出来ないことの把握や、こうすれば出来るかもしれないと言った意見をカンファレンスやミーティングの場に出し合う様にしている。また、実践した際は記録に残し、スタッフ間で情報共有するようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	愛媛県四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設整形病院であり、連携を取ることで健康管理が十分に出来ており、急変時や特変時にはすぐに対応できる環境にあります。  
また、併設施設として介護老人保健施設くりのみ館があり、デイケア職員や入居職員と部署間で連携を取ることで、施設全体で入居されている方の生活のフォローをすることが出来、どこにいても顔見知りの職員が居る安心感があります。  
レクリエーション活動では、様々なレクリエーションを取り入れ、その人が好きなレクリエーションに気軽に参加出来る、職員と一緒に楽しむことが出来るレクリエーションやイベントに力を入れています。  
月に2回音楽療法士が来られ、一人一人のプログラムに合わせて心と体のリハビリの時間を楽しみながら持つ事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年目の事業所であり、利用者の落ち着いた生活がうかがえる。利用者の普通の暮らしがそこにあり、それを支える代表者の医師、管理者、職員全員の温かい姿が見られるホームである。病院、入居施設、在宅サービス等、医療と福祉が連携できる事業所の運営形態は利用者、家族にとっても大きな安心になっており期待も大きい。法人全体で利用者一人ひとりを支えていこうという法人の方針は職員全員に周知され、各事業所間の協力体制も整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 3階 檜

記入者(管理者)

氏名 栗 育子

評価完了日 22 年 7 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念として掲げ、職員の目につくところに掲示し、理念の共有をしている。また、職員間でその人らしい生活は何か？話し合う場を設けている。</p> <p>(外部評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」という理念を実践する事について、職員全員で話し合い取り組んでいる。「その人らしい暮らし」を支援する難しさを感じながらも、高い理想にむけて取り組む姿勢がうかがえる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩に出かけた際は積極的に挨拶をしたり、地域のお祭りなどで御神輿や太鼓台が施設前に立ち寄って下さる。また、地域の幼稚園のお遊戯やボランティア活動の場にもなっている。</p> <p>(外部評価) 同法人の病院、介護老人保健施設、高齢者専用賃貸住宅、デイサービス等が隣接している環境で地域の住民、利用者の行き来があり、日常的に交流する機会がある。利用者にとっての新たな地域とのつながりと考え、法人全体で連携し支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議にて認知症について話したり、研修で学んだ内容を報告したりしている。また、地域の方やご家族から、認知症の事で困っていることや解らないことを意見交換の場として運営推進会議を活用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議で上がった問題点や課題などは職員間ですぐに話し合うようにしている。また、参加していないスタッフにも情報が共有できるように、議事録はすぐに目につくところへ設置している。改善を行った場合もすぐに報告するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2か月毎に定期的開催している。地域包括、婦人会、公民館館長、民生委員、入居者家族等が参加し、事業所の活動内容、利用者の状態、職員研修、地域交流、ボランティア等の報告を行い意見交換が行われている。意見や要望はスタッフ会で話し合っているが、サービス向上に十分活かしているとまでは言えない。</p>	運営推進会議での意見要望について、その場での回答に留まらず、継続課題として運営者、職員全員で話し合いサービス向上に活かせるような取り組みを期待したい。また、会議の出席者に家族の参加、職員の参加を促し、活発な意見交換や情報交換ができることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ふれあい相談員さんが来て下さり、情報交換を行うようにしている。気になることは書面だけではなく、その場でお話をするようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターの担当者に、運営推進会議に参加してもらうことで情報交換ができています。運営推進会議でのつながりを利用し協力関係を深めるよう取り組みを進めているところである。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に職員間で学ぶ場を設けるようにしている。また、身体拘束となりうる事が必要ではないかと上がった場合は、職員間で徹底的に話し合う様にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>身体拘束をしない方針を掲げ、夜間のみ玄関、各ユニットの入り口の施錠を行っている。また、職員は、研修やケアカンファレンス等で学んだことを活かし、日常の利用者との関わりにおいても、表情、行動、言動、気持ちを探りながら、利用者本位の声かけや態度に気をつけ、質の高いケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会の場を設け、知識と意識を深め防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学ぶ事で知識を深めている。また、職員間の定期的な勉強会の場を持つように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする際、パンフレットや書類などで詳しく説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関や各ユニットに、意見箱の設置をしている。また、来館時などに声掛けを行い、口頭でも気軽に言ってもらえる様な家族との関係作りに努めている。家族から出た意見に関しては、職員間で話し合いの場を持つようにしている。 (外部評価) 運営推進会議に家族も出席し、事業所の取り組み内容や具体的な課題について報告し質問、意見、要望を聞いており、その都度回答も行っている。会議の内容は議事録にして目に付くところに設置し、参加していない家族にも見てもらっている。また、家族には、定期的に行事案内やどんぐり新聞を送付し情報を発信している。	運営推進会議には家族の参加もあり、意見や要望も聞いているが、家族会等は設置しておらず、多くの家族からの意見や要望を聞く機会が少ない。多くの家族が参加でき、関わりを持ってもらえるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月定期的にミーティングを行い、管理者、職員での話し合いの場を設けている。普段からも意見を言いやすい様な雰囲気作りに努めている。  (外部評価) 法人全体の職員旅行や、スポーツ大会等、職員のレクリエーションの機会を設け、運営者、幹部職員、一般職員が親しく関われる機会を設け、話がしやすい環境ができています。代表者も普段から職員に親しく声かけし話しやすい雰囲気を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時等、職員の努力しているところや実績、反省や目標などを話し合う機会を設けるようにしている。また、大正琴・詩吟など業務に必要なスキルアップを図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設け、成果を発表する機会作りも積極的に行っている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、同法人老健スタッフと合同の勉強会を行っている。また、積極的に研修などにも参加し、職員間で研修で学んだ事の発表の場を持つようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った同業者の方と、連絡を取り合い交流を持ったり、他ホームに見学に行くなどの交流を持っている。また、今後も相互訪問の場を積極的に設けたいと思っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはお話を十分に伺い、不安に思っていることなど、入居に関する不安を取り除けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に家族が不安に思っている事や、希望などを必ず聞くようにしている。また、面会の際は積極的に声をかけお話しする場を設けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり、介護保険の内容を分かりやすく説明するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で出来る事はなるべく自分でしていただいたり、日常生活のお手伝い（食器を拭いたり、並べたり等）を、共に行ったりしている。また、得意なこと等は特に「教えていただく」という意識の中でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 関係が途切れない様に努め、来館時にはお話をしたり、なかなか来られない遠方の方には電話で連絡をしたりしている。イベントの際（特に外出）にはなるべくご家族に声掛けし、ご家族も一緒に出かけられる場を設けるようにしている。また、他科受診もご家族に協力を仰いで極力一緒に行っていただくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイケアに通っている方や病院に入院している方に会いたい人が居れば、職員間で連絡を取り合い会えるよう支援している。遠方にいる人に会いたいと言われる場合は、ご家族と相談しなるべく希望に添えるように支援している。手紙や電話などのやりとり等も支援している。 (外部評価) 入居8年目の利用者もおりホームでの生活が定着し、利用者にとっての馴染みの場所となっている。個々の利用者の状況によって支援の内容も臨機応変に対応している。法人内での職員の異動もあり、どこに行っても馴染みの職員がおり、各事業所間で連携を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で定期的に話し合いの場を設け、人間関係など気になる事は話し合い、ケアに活かすようにしている。レクリエーションや食事などの際は職員が間に入りながら入居者同士が円滑に交流出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の運営する医療サービス、施設サービス、他の居宅サービスを提供する事で、総合的にサポートする環境を整え、退去後在宅担当者会議への意見紹介を行い、退去後支援も怠りの内容に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当者を含め、職員間で定期的にカンファレンスを開催して、本人の希望や意向を把握するようにしている。また、個別ケア用紙を作成し、気になる事や本人の言葉を記録として残し、職員がケア内容含め把握出来る様にしている。 (外部評価) 「自分らしい暮らし」を職員全員で取り組んでいる。利用者一人ひとりが好きな事を積極的にできるように支援している。また、大正琴クラブは職員も参加し、利用者と共通の趣味として取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居後、ご本人やご家族、担当ケアマネなどから情報収集し、個別表に記録して職員間で情報を共有している。入居後には特に会話等の時間を設け、分かったことなどは随時追加し、職員間で話し合うようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一日の行動や気づいたこと等を記録として一人一人残し、状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族の参加は難しいのが現状ではある。来られないときは事前にお話を聞く時間を来館時に設けたり、電話でお話しし意見を聞けるように努めている。また、本人とよく話し、本人の希望に添えるよう心がけている。  (外部評価) 遠方の家族や疎遠になっている家族、家族間での意見の相違がある等課題もあるが、できるだけ利用者の現在の状況を把握してもらえるように、6か月毎にケアプランと一緒に手紙や写真を送っている。利用者や家族のカンファレンスへの参加を促す等今後の取り組みに期待できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別記録として残し、全職員が観覧できるようにしている。また、気になる事や気付いたこと、実施したこと、結果なども直ぐに書き込み、職員間で情報が共有できるようにしている。それを踏まえ、ケアカンファレンスの場を設け検討するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設（リハビリ機器・入浴装置・福祉車両など）を、その時の利用者の状況や要望に合わせ、他部門と連携しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などと連携を取りながら、問題点や要望があれば気軽に協力依頼出来る様な関係作りを構築している。また、最近では、運営推進会議から地域の人や婦人会の方の協力やお誘いも受けることが多くなってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人として隣接しており、いつでも柔軟に対応できるようになっている。昔からのかかりつけ医が居る方もおり、本人や家族の希望を尊重し家族や医療機関と連携を取りながら受診できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 殆どの利用者が母体である病院をかかりつけ医に希望しており、24時間365日医療と介護の連携のもと安心して安全な生活を送っている。代表者の医師は、ホームにもたびたび顔を出し、利用者や職員と日常的に関わりを持ち、情報交換を行っている。他科受診の時は家族の協力も得ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人施設として隣接しており、いつでも対応が出来る様になっている。病院の看護師とも連絡を取り合い、入居者の健康把握・管理を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 同法人医療機関に入院する方が殆どであり、同法人医療機関との連携は取れているが、他医療機関に掛かっている場合、情報交換や相談を行うようにしているが連携が取れているとは言い難い。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人としては、同ユニットの他の入居者との関係を考え、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設にて対応する事となっている。以上を説明した上で、本人や家族が望むのであれば他医療機関などの連携を取りケアしていくよう努めており、終末期についてなども職員間で話す場を設けている。</p> <p>(外部評価) ホームで終末期を迎えたい利用者や家族の希望もあり、今後終末期ケアに取り組む可能性もあり、看取りについて職員全員で話し合う機会を持っている。利用者や家族との話し合いが重要であることを理解し、医療との連携もできている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に、急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強会の場を設け、シュミレーションを行ったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、定期的に防火避難訓練を行っている。また、運営推進会議の場で火災時の避難について話し合いの場を設けたりしている。  (外部評価) 運営推進会議でも、防火安全対策について議題にしている。スプリンクラーの設置、緊急通報装置の設置、避難経路の確保、年2回の避難訓練等の安全対策は行っているが、地域の協力体制について課題があり、実際に火災があった場合の不安もある。	運営推進会議での継続課題として、地域との具体的な協力体制の構築、利用者も参加しての災害を想定した実践的で定期的な自主訓練の実施を期待したい。また、毎週行っている環境整備に付属した消火器や避難経路の確保等の設備点検を定期的に行うことで、職員の防災に関する意識の向上を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ間で、入居者に対する態度や言動については普段から話合う機会を定期的持つようにしている。プライバシーについても同様に話し合い、意見交換の場を持つようにしている。  (外部評価) 入室時のノックや声かけ、各居室にあるトイレ介助時の話し方や声の大きさ、トーンに配慮がされている。各居室の冷蔵庫内の食品の管理等、気になることはスタッフ会議で話し合い申し送りノートに記録しお互いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き出せたり、スタッフに言える様な人間関係作りに努めている。自己決定に関しても、本人が理解し、納得できる様に何事もよく説明するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の日課やお風呂の日等は決めているが、それにとらわれることなく、入浴や外出などの希望に添って柔軟に対応が出来る様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服などはなるべくご自分の好みの物を着ていただけるよう一緒に選んだりアドバイスをを行っている。お買い物には職員が一人に対し一人が付き添い、好きな服や似合う服を一緒に選び購入する方もいる。美容院も併設施設のボランティアを利用する方も多いが、家族や美容院の協力を得て、なじみの美容院を利用する方も多し。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の際や、日頃の会話の中で入居者の好みを聞き、メニューに活かしたり、季節に合わせた食材やメニューを提供するようにしている。調理は減多にされない方が多いが、片付けや準備は積極的に手伝って下さる方が多い。 (外部評価) 併設の施設の栄養士によりメニューやカロリー、食材の購入等管理しているが、調理は3ユニットで協力して行っている。利用者の能力や希望に合わせてできることは一緒に行っている。盛り付けの色合いや食器等で美味しく食べられる工夫をしたり、年に何度かは外食して希望に添えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側について、食事量のチェックやあまり食べられていない方には声掛けを行う様にしている。また、食事量や水分量に関しては、食事の際、入浴後、訪室時などに行い、特にチェックが必要な人に対しては記録として残し、職員間で把握が出来る様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診がありDrと連携し口腔ケアを行い、一人一人に応じた、口腔ケアや声掛けを行うようにしている。口腔状態に応じ歯科Drと相談しながら、専門具なども利用したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定時でトイレ誘導は行っているが、その方一人一人の排泄パターンを把握する事に努め、その方に合わせてトイレ誘導を行うようにしている。	
			(外部評価) 行動パターンを把握し声かけ誘導を行っている。排泄行動に問題のあった利用者が、トイレにて排泄できるようになった事例もあり、一人ひとりにあった排泄支援を行っている。夜間はリハビリパンツにて、睡眠妨害にならないよう配慮しながら声かけしトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) DrやNsと相談し、便秘薬にて便秘対応を行っているが、水分補給や運動を促し、自立排便が出来る様に支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位でお風呂とシャワー浴、併設施設の順温泉の大浴場を利用し、本人の希望や身体機能に合わせて入浴を行っている。また、予定として入浴日や時間は個々で設定しているが、本人の希望や状態によっては、予定日や時間に関係なく柔軟に対応できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の高齢化により、浴室の手すりを設置した。状態によって清拭等に変更した時は個々の入浴状態を介護記録に記載し申し送りしている。清潔が保てるように予定日や時間に関係なく柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠や生活リズムを尊重するようにしている。眠れないと訴える方や不安が強い方には、無理にベッドに誘導するのではなく、詰所や食堂で落ち着くまで一緒に過ごしたりお話ししたり安心出来るような働き掛けを行っている。また、室温やリネンも状況に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が服用している薬と、副作用の一覧表を詰所に置き、すぐに確認出来る様にしている。また、変更があった場合もすぐに最新の情報に直し、情報共有が出来る様にしている。新しい薬や変更された薬に関しては、すぐにスタッフに周知し、服用後の状態観察を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーション活動の参加を積極的に呼びかけている。レクリエーションも詩吟や大正琴、作業など色々と提供し、自分の好きなレクリエーションに自由に参加出来る様にしている。また、これまでの趣味を続けられるよう支援し、俳句の投書や、裁縫など積極的にしている人も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば、ご家族と相談し、体調の許す限り家族やなじみのタクシー運転手、外出先の方の協力を得て外出できるように支援している。 また、併設施設の入居者施設デイケア利用者に会いたいと言われる方も多く、部署間で連絡を取り合い、法人併設施設への行き来は自由に出来るようにしている。 (外部評価) 買い物デイは毎月計画し、利用者の希望に合わせて週1回程度予定し、近くのスーパーに行っている。年間行事でドライブも計画し、利用者の希望に添えるよう支援している。行事案内は家族にも送付し参加を呼びかけている。また、お正月やお盆の外泊、外出の支援についても家族に手紙で希望を聞き協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本はご自分で所持していただいております、その方の認知レベルに応じ、物盗られ妄想や置き忘れの酷い方などは、少額の所持とし、お買い物などで必要な際はご家族に連絡を取り、財布に入れていただくようにしている。 買い物の際はお財布を所持していただき、なるべくご自分の手から支払いを行えるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引くことが出来る様に設備している。最近では携帯電話を所持され、ご家族とお話しされる方も多い。公衆電話も設置しているが、よく電話をされる方は、先方に直通の携帯電話に掛けていただき、簡単にお話出来る様な対応をしている。手紙などはポストがあるが、直接職員に依頼する方が殆どである。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホーム内や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた色合いの内装にしている。玄関や食堂には季節の花を飾り付け、四季を感じる事が出来るようにしている。	
			(外部評価) 掃除担当の職員が2名おり、掃除が行き届き清潔が保たれている。照明も落ち着いたものにしており内装の雰囲気と相まって、落ち着いた空間になっている。なつかしい日本の住居の雰囲気があり利用者は居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂や廊下にソファ、マッサージチェアを置き、そこで気の合う方とお話したり、食堂でテレビを見てゆっくりとくつろぐ事が出来る様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室内には、本人が自宅で生活していたときから使っていた物や、写真などを飾り、本人にとって暮らしやすい環境になるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室にはトイレ、洗面台、クローゼットが設置され冷蔵庫、テレビ、ベット、整理ダンス、カーテンが備品として準備されている。清潔な部屋からは豊かな海や山を見ることが出来る。居室の入り口には、大きな木の表札があり利用者一人ひとりの住居ということを感じることが出来るよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の出来る事や出来ないことの把握や、こうすれば出来るかもしれないと言った意見をカンファレンスやミーティングの場に出し合う様にしている。また、実践した際は記録に残し、スタッフ間で情報共有するようにしている。	